

令和4年度 第56回 中学生の「税についての作文」
まちだ納税貯蓄組合連合会優秀賞

「税金のおかげで…」

町田市立堺中学校 3学年 前田 葉奈

七ヶ月前の朝、足の痛みで目が覚めた。病院に行くと、湯たんぽによる低温やけどだと診断された。低温やけどは、長期の治療になるため、何度も通院しなければならぬと聞いたとき、私は、怪我のことと同時にかかるお金の問題に不安になった。そのことを母に尋ねると、お金については税金によって医療費が大幅に軽減されているため、心配する必要はないと言われた。また、通院代だけでなく、治療の為の薬も多く貰っているため、もし税金によって医療費が軽減されなければ、かなりの治療費を払わなければならなかった。現在、治療は順調に回復へと向かっているが、このようにスムーズに治療が行えるのは、税金のおかげでもあると思う。

今回、やけどという怪我があったからこそ、税金について考え、ありがたさを感じたが、改めて意識してみると、当たり前だと思っていた多くのことが税金によって支えられていることが分かった。例えば、私が一番身近に感じたことは、教科書や授業料が無料なことだ。以前、テレビで、世界には格差などで学校に通えない子供が多くいることを知った。この現状を考えると、自分が当たり前のように教科書を貰ったり、授業を受けられたりすることはとても幸せなことだと思う。また、教育費の他にも、図書館や市民プール、公園など、頻繁に利用する施設も、税金によって無料で使用できる。特に、市民プールや公園は、幼い頃によく親に連れて行ってもらった記憶がある。母は、このような施設があるおかげで、子育てをする親同士での交流があったり、子供同士も仲良くなったたりできるため、子育てをする親にとっても助けになるものなのだと知っている。

また、家族が新型コロナウイルスに感染したときのことで、濃厚接触者でも外出はできないため、誰も買い出しに行くことができずに困っていた。そんな時、自宅療養サポートセンターから食料品を支給してもらいうことができた制度があることを知った。申し込んですぐに、多くの食料品や飲料が届いた。家族全員が不安を抱えている中で、このような物資が届いた時は心強かった。私たちが支給してもらった食料品にも税金が使われていると知り、困っている人に必要なものが行き届くという社会の仕組みは素晴らしいと思った。

普段、税金を払うとき、税金の意味が分からなかったり、払いたくないと思ったりしたことがあったが、意識して考えると、様々な場面で税金に支えられていると分かった。そのため、大人になっても払うべき税金はしっかり納め、自分の子供にも税金はなくてはならないものだということを伝えていきたいと思う。